

呉城覽古

陳

羽

呉王の旧国水煙空し

香径人無く蘭葉紅なり

春色は歌舞の地を憐むに似て

年年先ず発く館娃宮

【作者】陳 羽(七八五〜八〇四年)・江東の人。貞元に進士の第に登し、樂宮尉佐を官。詩一卷。杜甫と親交があつた。

【語釈】\*呉城…呉の都、姑蘇。現在の江蘇省蘇州市。 \*覽古…古跡を見て昔を偲ぶこと。懐古に同じ。

\*呉王…呉王夫差のこと。「臥薪嘗胆」の故事あり。 \*舊國…姑蘇をいう。

\*香径…採香径のこと。西施のために作られた庭園内のこみち。 \*歌舞地…かつて榮華を誇つた館娃宮のこと。 \*年年…毎年。

\*館娃宮…蘇州靈岩山にあつた、呉王が西施に贈つた離宮。現在は、靈岩寺があり、周辺に館娃宮跡と伝えられる場所がある

【通釈】かつて呉王の支配していたこの地 今は水面にかかる霧が空しく広がるばかり、香草の茂る小道には人影も無く 蘭の葉は赤くしておたれてる。

春景色は古の華やかな宴遊の場所を愛惜するかのように、毎年 館娃宮のあとにまっさきに展開する